

富士の民話

あれこれ

猿

番
道



大渏中学校の北側から大渏二丁目に通じる細い山道があり、地元の人は「猿番道」と呼んでいます。今ではすっかり整備されたこの道のわきに、大きな石があります。

今回は、この石に座つて道の番をしていたという大猿のお話です。

昔、大渏本村や中野村から大渏新田へ通じる道は、たつた一本しかありませんでした。その細い山道には、林の枝葉が覆いかぶさり、昼間でも薄暗いほどでした。

この林の中に、いたずら好きの大猿が一匹すんでいました。この猿は、どこで覚えたのか火打ち石で火をおこすことを知つていました。

ある日、猿は道の中ほどにあるケヤキの大木に登り、人が通るのを待つていました。しばらくすると、一人の女人人が荷物を背負つて、木の下を通つたので、猿は枝を折つて火をつけ、女人の真上から落としました。頭上から火が降つてきたので女人人はびっくり仰天。悲鳴を上げて逃げていきました。

猿は、そのおもしろさに味をしめ、通行人を毎日驚かすようになります。

人々が、「こんないたずら猿は殺してしまおう」と言うのを聞いた猿は、両手で拝みながら「これからは決してしません」と、涙を流して謝りました。そして、村人たちは、その言葉を信じ、猿を放してあげました。

それから間もなく、この猿は、ケヤキの根元の大きな石に座つて道の番をするようになりました。そのおかげで、人々は薄暗い道も安心して通れるようになったということです。それからというもの、人々は、この山道を「猿番道」と呼ぶようになります。

約十年前、公民館のビデオ講座に入門してから、私はビデオ撮影に熱中し、今まで多くの作品を制作してきました。私が、「猿番道」の話を制作しようと考えたのは、数年前に広報ふじでその話を読んだのがきっかけ。地元のおもしろい民話だと思ったので、アニメ手法のビデオ制作に初挑戦してみました。切り絵を三百八十枚使い、すべて自分で工夫しながら撮影を行いました。約七分間の作品ですが、構想から完成まで一年以上かかりましたよ。

大渏地区には、さまざまな民話（題材）があるので、次は影絵を使った映像に挑戦しようか、と思っています。※平井さん制作の「猿番道」は、広報広聴課で無料貸し出ししています。



「猿番道」を題材に

アニメビデオを制作した

平井弘雄さん（大渏）

こちら編集室

まだ24年しか生きていないけど、去年の4月からの時間の過ぎ方は、今まで経験したことがない早さでした。学生のころは「社会になればテストがなくて楽なのに」と考えていたけれど、はっきり言って今では「金を払ってでも学生に戻りた~い！」と思う日もあり

ます。この4月から社会人になる人の中には、苦労して就職の内定を得た人もいると思います。しかし、本当に大変なのはこれから。大きなお世話だと思いますが、少しだけ社会をのぞいてみた先輩からのアドバイスです。（まだ学生気分は抜け切っていませんが…）

人口 235,031人

男 117,028人 女 118,003人

世帯 75,198世帯 (2月1日現在)

発行・編集 富士市総務部広報広聴課

静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

